

第 69 回定時株主総会

その他の電子提供措置事項（交付書面省略事項）

連結株主資本等変動計算書 P 1

連結計算書類の連結注記表 P 2

株主資本等変動計算書 P 16

計算書類の個別注記表 P 17

株式会社平和堂

連結株主資本等変動計算書

(2025 年 2 月 21 日から)
(2026 年 2 月 20 日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	11,614	19,746	155,815	△2,485	184,690
当期変動額					
剰余金の配当			△3,296		△3,296
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		30			30
親会社株主に帰属する当期純利益			9,409		9,409
自己株式の取得				△2,697	△2,697
自己株式の処分		2		16	19
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
当期変動額合計	-	32	6,112	△2,680	3,464
当期末残高	11,614	19,778	161,928	△5,165	188,155

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	913	2,843	1,462	5,219	2,116	192,026
当期変動額						
剰余金の配当						△3,296
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						30
親会社株主に帰属する当期純利益						9,409
自己株式の取得						△2,697
自己株式の処分						19
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	1,280	165	972	2,418	52	2,471
当期変動額合計	1,280	165	972	2,418	52	5,935
当期末残高	2,194	3,009	2,434	7,637	2,168	197,962

連結注記表

I 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社は、下記の11社であります。

(株)ファイブスター (株)バストーネ (株)ナショナルメンテナンス (株)ダイレクト・ショップ 加賀コミュニティプラザ(株) 平和堂(中国)有限公司 湖南平和物業発展有限公司 (株)シー・オー・エム 武生駅北パーキング(株) 福井南部商業開発(株) 富山フューチャー開発(株)

当連結会計年度において、連結子会社でありました(株)ユーイングの全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。また、連結子会社でありました(株)エールおよび(株)ヤナゲンは、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 非連結子会社は、熊谷電工(株)の1社であります。

当連結会計年度において、非連結子会社であった(株)ベルは清算を結了したため、非連結子会社から除外しております。

(3) 非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用していない非連結子会社は、熊谷電工(株)の1社であります。

当連結会計年度において、持分法を適用していない非連結子会社であった(株)ベルは清算を結了したため、持分法を適用していない非連結子会社から除外しております。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社は、当期純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社のうち決算日が連結決算日と異なる子会社は、下記の2社であります。

平和堂(中国)有限公司	12月31日
湖南平和物業発展有限公司	12月31日

(2)上記2社は、各社の決算日現在の計算書類に基づき連結しております。なお、当該会社の決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ)有価証券

その他有価証券

市場価格のない株…… 連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法
式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株…… 移動平均法による原価法
式等

(ロ)棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価
切下げの方法)

- a 商品及び製品 主として売価還元法
- b 原材料及び貯蔵品 主として最終仕入原価法

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ)当社及び国内子会社

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く) …………… 定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並び
に2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定
額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

- 建物 8～39年
- 構築物 10～20年
- 工具、器具及び備品 3～10年

無形固定資産(リース資産を除く) …………… 定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能
期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用して
おります。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が2009年2月20日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

長期前払費用 …………… 定額法

(ロ)在外子会社

定額法を採用しております。

(ハ)少額減価償却資産

当社

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却する方法を採用しております。

連結子会社

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、支払時に全額費用処理しております。

(3)重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ハ)役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ニ)利息返還損失引当金

将来の利息返還の請求に伴う損失に備えるため、過去の返還実績等を勘案した必要額を計上しております。

(ホ)閉店損失引当金

店舗閉鎖等の意思決定が行われたため、将来発生が見込まれる損失額を計上しております。

(ヘ)災害損失引当金

災害に伴う復旧費用等の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5)のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法により償却しております。

(6)収益及び費用の計上基準

①商品の販売に係る収益認識

当社グループの商品販売に係る収益は、主に小売事業における商品の販売によるものであります。これらの取引については、通常、商品を顧客に引き渡した時点で、履行義務が充足されると判断しており、当該商品を引き渡した時点で収益を認識しております。

なお、商品販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、顧客から受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識しております。販売における対価は、現金で受領しております。その他クレジット、電子マネー、掛売があります。これらは、通常1カ月以内で現金化されます。

②サービスに係る収益認識

当社グループのサービスに係る収益は、主に物流サービス、設備メンテナンスによる事業収入であります。これらのサービスの提供は継続的に提供しており履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断していることから、サービスの提供に応じて収益を認識しております。

③不動産事業に係る収益

当社グループの不動産事業に係る収益は、主に商業施設の運営、管理に関連する事業収入であります。これらの取引については、主に通常の賃貸借取引に係る方法に準じて収益を認識しております。

(7) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

5. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損損失

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

・有形固定資産	209,039百万円
・無形固定資産	9,778百万円
・長期前払費用(投資その他の資産 その他)	1,714百万円
・減損損失	637百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結総資産に占める当社の固定資産の割合が62.6%であり、当社が重要な割合を占めるため、以下に記載する固定資産の減損の算出方法・主要な仮定は当社について記載しております。なお、子会社は当社に準じて固定資産の減損の処理を行っております。

①金額の算出方法

固定資産の減損に係る回収可能性の評価にあたり、他の資産又は資産グループから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位を考慮し、店舗を基本単位としてグルーピングを行っております。店舗以外の賃貸用不動産及び遊休不動産については個別の物件毎にグルーピングをしております。

資産又は資産グループの営業損益が2年連続してマイナスの場合及び経営環境の著しい悪化の場合、固定資産の時価が著しく下落した場合、あるいは閉店・売却・遊休の意思決定をした場合に減損の兆候を把握しております。

減損の兆候が把握された店舗については、将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フローの合計が当該資産又は資産グループの固定資産の帳簿価額を下回る場合には減損損失を認識しております。

減損損失を認識する場合について、固定資産の帳簿価額が回収可能価額を下回る場合には、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い金額によっております。正味売却価額は、金額的に重要な固定資産について、不動産鑑定士による

不動産鑑定評価額、もしくは路線価を基準に合理的な見積りにより算定しております。また、使用価値は各資産又は資産グループの継続的使用と使用後の構成資産の処分によって見込まれる将来キャッシュ・フローを、借入資本コストと自己資本コストを加重平均した資本コストで現在価値に割り引いて算定しております。

②主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りは、経営会議で承認を得た事業計画に基づく各店舗の将来収益予測に基づいております。各店舗の事業計画の主要な仮定は売上高であります。店舗別に過去実績、店舗年齢、他社及び自社店舗の競合状況の変化見込、その他市場環境の変化等を勘案して売上高の予測をしております。

(3) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

事業計画に含まれる売上高・営業収入の実現可能性及び商圈状況の変化による影響を受ける可能性があることから高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。当該見積り額の前提とした条件や仮定に変化が生じ、将来キャッシュ・フローが減少した場合、減損損失を認識することになる可能性があります。

6. 会計上の見積りの変更に関する注記

(資産除去債務の見積り変更)

当連結会計年度において、当社グループの不動産賃借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、店舗の退去時に必要とされる原状回復費用に関する新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。

この見積り変更による増加額1,450百万円を変更前の資産除去債務に加算しております。

なお、当該見積り変更により、当連結会計年度の営業利益、経常利益および税金等調整前当期純利益は169百万円減少しております。

II 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

237,218百万円

Ⅲ 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計 年度末株式数
発行済株式				
普通株式	51,546,470	—	—	51,546,470
自己株式				
普通株式	1,098,542	1,000,235	7,209	2,091,568

- (注) 1. 普通株式の自己株式の増加235株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。
2. 普通株式の自己株式の増加1,000,000株は、取締役会決議に基づく取得による増加であります。
3. 普通株式の自己株式の減少7,209株は、業績連動型株式報酬としての処分による減少であります。

2. 配当に関する事項

①配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年 5月15日開催 定時株主総会	普通株式	1,664	33.00	2025年 2月20日	2025年 5月16日
2025年 10月2日開催 取締役会	普通株式	1,632	33.00	2025年 8月20日	2025年 11月4日

②当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年 5月14日開催 定時株主総会	普通株式	1,632	利益剰余金	33.00	2026年 2月20日	2026年 5月15日

※2026年5月14日開催予定の定時株主総会の決議として、普通株式の配当に関する事項を付議いたします。

IV 金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、安全性の高い金融資産に限定して資金運用をしており、一方、短期的な運転資金や設備投資計画に照らして必要となる資金は、主として銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産は、顧客又はクレジット会社の信用リスクに晒されておりますが、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券は、主として業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期毎に時価や発行体の財務状況を把握することにより市場価格の変動リスクの軽減を図っております。

長期貸付金は、主に店舗開設に係る貸付金であり、貸付先の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクについては、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

敷金及び保証金は、主に店舗の賃借に係るものであり、貸主の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクについては、財政状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金・未払金及び未払費用・未払法人税等・未払消費税等・預り金・商品券は、主として6ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、運転資金の調達を目的としたものであります。長期借入金（原則として5年以内）及びリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであります。受入敷金保証金は、店舗のテナントへの賃貸によるものであります。これらについては、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各部署からの報告に基づき資金担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。このうち一部（長期借入金）については、金利の変動リスクに晒されておりますが、固定金利と変動金利を勘案しリスク軽減を図っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年2月20日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表に含まれておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券 ※2	4,778	4,778	—
(2) 長期貸付金 ※3	147	139	△8
(3) 敷金及び保証金	17,497	15,607	△1,890
資産計	22,423	20,524	△1,898
(4) リース債務（1年内返済予定含む）	0	0	—
(5) 長期借入金	11,961	11,807	△154
(6) 受入敷金保証金	8,204	7,186	△1,017
負債計	20,166	18,994	△1,172

※1 「現金及び預金」「受取手形、売掛金及び契約資産」「支払手形及び買掛金」「短期借入金」「未払金及び未払費用」「未払法人税等」「未払消費税等」「預り金」「商品券」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

※2 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含めておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度（百万円）
非上場株式	948

※3 長期貸付金の連結貸借対照表計上額は貸倒引当金300百万円を控除しております。

(注) 1 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	23,227	—	—	—
受取手形、売掛金※	13,439	—	—	—
敷金及び保証金	505	1,252	114	191
合計	37,171	1,252	114	191

※連結貸借対照表上一括で表記している「受取手形、売掛金及び契約資産」のうち、契約資産を除いた金銭債権である受取手形及び売掛金の金額を記載しております。

(注) 2 長期借入金、リース債務の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	5,280	3,555	8,231	100	75	—
リース債務	0	—	—	—	—	—
合 計	5,280	3,555	8,231	100	75	—

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観測可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

- ・レベル1の時価

観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

- ・レベル2の時価

観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

- ・レベル3の時価

観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1)時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券 株式	4,778	—	—	4,778
資産計	4,778	—	—	4,778

(2)時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	—	139	—	139
敷金及び保証金	—	15,607	—	15,607
資産計	—	15,746	—	15,746
リース債務(1年内返済予定含む)	—	0	—	0
長期借入金	—	11,807	—	11,807
受入敷金保証金	—	7,186	—	7,186
負債計	—	18,994	—	18,994

(注)時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

(1) 投資有価証券

上場株式は、相場価格を用いて評価しております。上場株式は市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

(2) 長期貸付金

回収可能性を反映した元利息の受取見込額を残存期間に対応する国債の利回りに基づいた利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(3) 敷金及び保証金

これらの時価については、返還時期を見積り、将来キャッシュ・フローを国債利回りに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

負債

(4) リース債務、(5) 長期借入金

これらの時価については、元利息の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(6) 受入敷金保証金

返還時期を見積り、将来キャッシュ・フローを国債利回りに信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

V 収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	計
	小売	小売周辺	計		
営業収益					
物販売上	400,383	1,000	401,384	16,592	417,976
サービス収入	16,852	4,000	20,852	63	20,915
顧客との契約から生じる収益	417,236	5,001	422,237	16,655	438,892
その他の収益	15,112	1,866	16,979	138	17,117
外部顧客への売上高	432,348	6,867	439,216	16,793	456,010

(注)その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「I 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等」の「4. (6)収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

当連結会計年度	
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	
受取手形	—
売掛金	11,820
	11,820
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	
受取手形	0
売掛金	13,438
	13,439
契約資産(期首残高)	20
契約資産(期末残高)	20
契約負債(期首残高)	10,723
契約負債(期末残高)	10,525

(注)1. 契約負債は、当社グループが付与したポイント及び発行した電子マネー、商品券のうち、期末時点において履行義務を充足していない残高であります。

2. 当連結会計年度において認識した収益のうち、期首の契約負債に含まれていたものは、9,575百万円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価額

2026年2月20日現在、商品券・電子マネーに係る残存履行義務に配分した取引価額の総額は9,599百万円であります。当社グループは、当該残存履行義務について、これらが使用されるにつれて今後2年の間で収益を認識することを見込んでいます。

なお、当初の予想期間が1年以内の契約であるものについては、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。

VI 賃貸等不動産に関する注記

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、滋賀県その他の地域において、主に店舗用の建物を有しており、一部テナントに賃貸しております。

2026年2月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は7,247百万円（賃貸収入は営業収入、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上）であります。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
当連結会計 年度期首残高	当連結会計 年度増減高	当連結会計 年度末残高	
28,279	△3,166	25,112	23,431

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当期増減額のうち、主な増加額は店舗の新設(1,307百万円)であり、主な減少額はアル・プラザ宇治東における賃貸契約終了(5,325百万円)であります。

3. 当連結会計年度末の時価は、不動産鑑定士による鑑定及び「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。

VII 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 3,959円03銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 189円29銭 |

~~~~~  
(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

# 株主資本等変動計算書

( 2025 年 2 月 21 日から  
2026 年 2 月 20 日まで )

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |                  |                 |           |                               |                       |                                 |                       |
|-------------------------|---------|-----------|------------------|-----------------|-----------|-------------------------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金     |                  |                 |           | 利益剰余金                         |                       |                                 |                       |
|                         |         | 資本<br>準備金 | その他<br>資本<br>剰余金 | 資本<br>剰余金<br>合計 | 利益<br>準備金 | その他利益剰余金                      |                       |                                 | 利<br>剰<br>余<br>合<br>計 |
|                         |         |           |                  |                 |           | 固定資産<br>圧<br>縮<br>積<br>立<br>金 | 別<br>途<br>積<br>立<br>金 | 繰<br>越<br>利<br>益<br>剰<br>余<br>金 |                       |
| 当期首残高                   | 11,614  | 19,017    | —                | 19,017          | 2,168     | 743                           | 124,850               | 10,392                          | 138,153               |
| 当期変動額                   |         |           |                  |                 |           |                               |                       |                                 |                       |
| 剰余金の配当                  |         |           |                  |                 |           |                               |                       | △3,296                          | △3,296                |
| 当期純利益                   |         |           |                  |                 |           |                               |                       | 9,540                           | 9,540                 |
| 圧縮積立金の取崩                |         |           |                  |                 |           | △63                           |                       | 63                              | —                     |
| 自己株式の取得                 |         |           |                  |                 |           |                               |                       |                                 | —                     |
| 自己株式の処分                 |         |           | 2                | 2               |           |                               |                       |                                 | —                     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |           |                  |                 |           |                               |                       |                                 |                       |
| 当期変動額合計                 | —       | —         | 2                | 2               | —         | △63                           | —                     | 6,307                           | 6,244                 |
| 当期末残高                   | 11,614  | 19,017    | 2                | 19,019          | 2,168     | 679                           | 124,850               | 16,699                          | 144,397               |

|                         | 株 主 資 本 |         | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計   |
|-------------------------|---------|---------|------------------|----------------|---------|
|                         | 自己株式    | 株主資本合計  | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |         |
| 当期首残高                   | △2,485  | 166,299 | 913              | 913            | 167,213 |
| 当期変動額                   |         |         |                  |                |         |
| 剰余金の配当                  |         | △3,296  |                  |                | △3,296  |
| 当期純利益                   |         | 9,540   |                  |                | 9,540   |
| 圧縮積立金の取崩                |         | —       |                  |                | —       |
| 自己株式の取得                 | △2,697  | △2,697  |                  |                | △2,697  |
| 自己株式の処分                 | 16      | 19      |                  |                | 19      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |         | 1,280            | 1,280          | 1,280   |
| 当期変動額合計                 | △2,680  | 3,565   | 1,280            | 1,280          | 4,846   |
| 当期末残高                   | △5,165  | 169,865 | 2,194            | 2,194          | 172,059 |

# 個別注記表

## I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法に基づく原価法

その他有価証券

市場価格のない株…………… 事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法  
式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株…………… 移動平均法に基づく原価法  
式等

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

評価基準は原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品 …………… 売価還元法  
ただし生鮮食料品は最終仕入原価法

貯蔵品 …………… 最終仕入原価法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)……………定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～39年

構築物 10～20年

工具、器具及び備品 3～10年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)……………定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

- (4)長期前払費用……………定額法
- (5)少額減価償却資産……………取得価額が10万円以上20万円未満の資産については3年均等償却する方法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3)役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与にあてるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (4)利息返還損失引当金

将来の利息返還の請求に伴う損失に備えるため、過去の返還実績等を勘案した必要額を計上しております。

#### (5)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

#### (6)閉店損失引当金

店舗閉鎖等の意思決定が行われたため、将来発生が見込まれる損失額を計上しております。

#### (7)災害損失引当金

災害に伴う復旧費用等の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

#### 4. のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の定額法により償却しております。

#### 5. 収益及び費用の計上基準

##### (1)商品の販売に係る収益認識

当社の商品販売に係る収益は、主に小売事業における商品の販売によるものであります。これらの取引については、通常、商品を顧客に引き渡した時点で、履行義務が充足されると判断しており、当該商品を引き渡した時点で収益を認識しております。

なお、商品販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、顧客から受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識しております。販売における対価は、現金で受領しております。その他クレジット、電子マネー、掛売があります。これらは、通常1カ月以内で現金化されます。

##### (2)サービスに係る収益認識

当社のサービスに係る収益は、主に物流サービスによる事業収入であります。これらのサービスの提供は継続的に提供しており履行義務は一定の期間にわたり充足されると判断していることから、サービスの提供に応じて収益を認識しております。

##### (3)不動産事業に係る収益

当社の不動産事業に係る収益は、主に商業施設の運営、管理に関連する事業であります。これらの取引については、主に通常の賃貸借取引に係る方法に準じて収益を認識しております。

#### 6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## 7. 表示方法の変更に関する注記

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「特別損失」の「関係会社支援損」は、特別損失の総額の総額の100分の10以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。

## 8. 会計上の見積りに関する注記

固定資産の減損損失

(1)当事業年度の計算書類に計上した金額

|         |            |
|---------|------------|
| ・有形固定資産 | 185,963百万円 |
| ・無形固定資産 | 8,435百万円   |
| ・長期前払費用 | 1,718百万円   |
| ・減損損失   | 482百万円     |

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結注記表 5. 会計上の見積りに関する注記 に記載しております。

(3)翌事業年度の計算書類に与える影響

事業計画に含まれる売上高の実現可能性及び店舗ごとの商圈状況の変化による影響を受ける可能性があることから高い不確実性を伴い、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。当該見積り額の前提とした条件や仮定に変化が生じ、将来キャッシュ・フローが減少した場合、減損損失を認識することになる可能性があります。

## 9. 会計上の見積りの変更に関する注記

(資産除去債務の見積り変更)

当事業年度において、当社の不動産賃借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、店舗の退去時に必要とされる原状回復費用に関する新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。

この見積り変更による増加額1,460百万円を変更前の資産除去債務に加算しております。

なお、当該見積り変更により、当事業年度の営業利益、経常利益および税引前当期純利益は150百万円減少しております。

## II 貸借対照表に関する注記

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 195,141百万円 |
| 2. 関係会社に対する金銭債権   |            |
| 短期金銭債権            | 580百万円     |
| 長期金銭債権            | 5,882百万円   |
| 3. 関係会社に対する金銭債務   |            |
| 短期金銭債務            | 7,886百万円   |
| 長期金銭債務            | 1,734百万円   |

## III 損益計算書に関する注記

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 関係会社との取引高         |           |
| 営業取引              |           |
| 売上高               | 11百万円     |
| 不動産賃貸収入及びその他の営業収益 | 3,382百万円  |
| 仕入高               | 44,124百万円 |
| 販売費及び一般管理費        | 6,524百万円  |
| 営業取引以外の取引高        | 815百万円    |

## IV 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

|      | 当事業年度<br>期首株式数 | 当事業年度<br>増加株式数 | 当事業年度<br>減少株式数 | 当事業年度末<br>株式数 |
|------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 自己株式 |                |                |                |               |
| 普通株式 | 1,098,542      | 1,000,235      | 7,209          | 2,091,568     |
| 合計   | 1,098,542      | 1,000,235      | 7,209          | 2,091,568     |

- (注) 1. 普通株式の自己株式の増加235株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。  
2. 普通株式の自己株式の増加1,000,000株は、取締役会決議に基づく取得による増加であります。  
3. 普通株式の自己株式の減少7,209株は、業績連動型株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

## V 税効果会計に関する注記

### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

| 繰延税金資産                |           |
|-----------------------|-----------|
| 賞与引当金                 | 404百万円    |
| 商品券販売                 | 51百万円     |
| 未払事業税等                | 176百万円    |
| 返金負債                  | 1,565百万円  |
| 貸倒引当金                 | 475百万円    |
| 退職給付引当金               | 183百万円    |
| 退職給付信託                | 2,061百万円  |
| 投資有価証券評価損             | 66百万円     |
| 減損会計適用分               | 3,163百万円  |
| 減価償却超過                | 2百万円      |
| 資産除去債務                | 2,775百万円  |
| その他                   | 374百万円    |
| 繰延税金資産小計              | 11,300百万円 |
| 将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 | △3,207百万円 |
| 繰延税金資産合計              | 8,093百万円  |
| 繰延税金負債                |           |
| 固定資産圧縮積立金             | △309百万円   |
| 有形固定資産（資産除去債務等）       | △2,587百万円 |
| その他有価証券評価差額           | △1,002百万円 |
| 繰延税金負債合計              | △3,899百万円 |
| 繰延税金資産の純額             | 4,193百万円  |

## VI 関連当事者との取引に関する注記

### (1) 当社の子会社及び関連会社等

| 種類          | 会社等の名称             | 所在地               | 資本金又は<br>出資金(百万円) | 事業の<br>内容  | 議決権等<br>の所有<br>(被所有)<br>割合(%)          | 関連当事者<br>との関係 | 取引の<br>内容 | 取引金額<br>(百万円) | 科目            | 期末残高<br>(百万円) |
|-------------|--------------------|-------------------|-------------------|------------|----------------------------------------|---------------|-----------|---------------|---------------|---------------|
| 子<br>会<br>社 | 株式会社<br>ベストオーネ     | 滋賀県<br>犬上郡<br>多賀町 | 50                | 小売周辺<br>事業 | (所有)<br>直接100.0<br>(被所有)<br>直接—<br>間接— | 商品仕入<br>不動産賃貸 | 仕入高       | 44,119        | その他<br>(流動負債) | 1,269         |
| 社           | 株式会社<br>ダイレクト・ショップ | 滋賀県<br>彦根市        | 100               | 小売事業       | (所有)<br>直接100.0<br>(被所有)<br>直接—<br>間接— | 商品仕入<br>不動産賃貸 | —         | —             | 貸付金           | 3,300         |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引については、市場価格を勘案して決定しております。

### (2) 役員及び主要株主等

| 種類                                                                          | 会社等の名称<br>又は氏名   | 所在地        | 資本金又は<br>出資金(百万円) | 事業の<br>内容<br>又は<br>職業 | 議決権等<br>の所有<br>(被所有)<br>割合(%)      | 関連当事者<br>との関係           | 取引の<br>内容 | 取引金額<br>(百万円) | 科目   | 期末残高<br>(百万円) |
|-----------------------------------------------------------------------------|------------------|------------|-------------------|-----------------------|------------------------------------|-------------------------|-----------|---------------|------|---------------|
| 役員及び<br>その近親<br>者が議決<br>権の過半<br>数を所有<br>している<br>会社(当該<br>会社の子<br>会社を含<br>む) | 株式会社<br>ピース&グリーン | 滋賀県<br>彦根市 | 5                 | 不動産賃貸<br>及び管理等        | (所有)<br>—<br>(被所有)<br>直接3.8<br>間接— | 不動産賃貸借<br>人材派遣<br>役員の兼任 | 賃借料等      | 248           | 差入敷金 | 346           |
|                                                                             |                  |            |                   |                       |                                    |                         | 人材派遣等     | 536           | 未払費用 | 40            |
|                                                                             |                  |            |                   |                       |                                    |                         | 給与の立替払い   | 510           | 未収入金 | 35            |

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

取引については、市場価格を勘案して決定しております。

2. 株式会社ピース&グリーンは、当社代表取締役役員副社長執行役員COO夏原平及びその近親者が議決権の過半数を保有しております。

## VII 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報

「I 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「5. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## VIII 1 株当たり情報に関する注記

|               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 3,479円12銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 191円93銭   |

~~~~~  
(注) 記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てております。